

お客様各位 元氣通信

伝言ゲームの怪

お元氣ですか？ もう9月になっちゃいました。子どもの頃の一年と今の一年の長さが倍ほど違うような感覚に陥るのはやっぱり年のせいなんでしょうか？（汗）

子どもの頃と言えば、いくつくらいのおきだったか定かではありませんが、ジエスチャーゲームや伝言ゲームなどといった遊びをした覚えがあります。テレビ番組でも時折行っています。見ている側はなんでそうなるの？？と変態がゆくまた面白いものですが、やっている当人たちは結構必死。それがまた面白くて大笑いしてしまいます。当社でも昔、会社の新年会のアトラクションで、チーム対抗でこれらのゲームを行ったことがあります。なかなか伝わらなくて、奇々怪々な回答が聞かれて大笑いしたことを覚えています。

ところが実際の仕事になると、伝言ゲームは実に厄介な問題を引き起こすことがあります。情報が伝える側の憶測や希望的観測が入ったり情報の内容に抜けが出たりして、いつの間にか情報そのものがまったく違う状況で伝わるのです。これが社内間だけでも問題なのに、客先に及ぶとんでもないクレームとなってしまう可能性があります。程度の差はあれ、人間の記憶というのは曖昧である、ということをおまえ、「情報の伝達」には注意を払わなければなりません。資料そのものは正確に伝わりやすく、残りますので後日再検証することもできます。伝言よりはずっと有効な手段だと思います。（もともと当事者から話を聞いた人が自分なりに解釈して文章で送ればすでにその時点で変化している可能性が大ですが）しかし、言葉に含まれる微妙なニュアンスを感じ取ることはまず難しい。それじゃあどうすればいいの？ということになってしまいますが、まずはどの方法も不完全であるという前提を認識し、復唱や確認を互いにしあう、必要と思われることは必ず文章または図式、書類に残し、互いに確認しあう、というコミュニケーションが大切になると思います。ついでにお礼状などは極力直筆にしたほうが気持ちも伝わる、それも縦書きでと言われている。乱筆覚悟でなるべくそうすべくただ今努力中です。（大汗）

日本の野鳥シリーズ

気合い充分のツグミ

技術営業部 佐藤 弘

欧州で繁殖しアフリカ大陸で越冬する鳥の多くは地中海を縦断せず、西端のジブラルタル海峡を越えるか東端のシリア・レバノン辺りを地続きに渡るといいます。水鳥以外のものには洋上長距離飛行はやはり無理のようだ。では、大陸から日本へ越冬に来る冬鳥はといえば、北方領土から北海道と朝鮮半島から九州の二つの他に、日本海横断のルートがあるという。

ツグミは水鳥ではないのに横断ルートで渡って来るらしい。最終越冬地では単独で過ごす本種が、渡来間もないと思える秋の一時期に北陸地方で大群をなしているのは、3000m級の北アルプスを目標に飛び能登半島に上陸するからだ、と言うのが根拠らしい。空気が澄みわたる秋だから遥か洋上から山並みが見える筈で、これは説得力がある。しかし、ウンカの如く鳥が渡って来れば能登の風物詩になって然るべきだし、鳥キチがさっそく駆けつけて「今日はツグミ類の混群ウン千羽到着！」と入国審査を始めるだろうが、そんな話は聞かない。

そこで暇にまかせて考えた。気象衛星写真の雲の流れから、出発地を中・ロ国境辺りとして能登迄の距離はおおよそ700km。うまく追い風をとらえて時速40km程で飛ぶと仮定して、夜明けに出発すると能登到着は深夜になる。洋上では太陽を基準に天測するか地磁気を感じて定位するのか、夕陽に染まる連山を遥かに視認した後、日没後は北極星に頼るか…。これなら、へたばって日本に到着したとたんタカに歓迎される事もない。

越冬中は疎林や耕地で採餌し庭木の実を求めて人家にも現れるが、乏しい餌をめぐる共倒れを防ぐため決して群れない。北帰行はかなり遅い方で、大陸で餌になる虫が十分に捕れる五月連休過ぎになるようだ。帰りは難儀な向かい風の洋上飛行は避け、地続きに南下して九州から朝鮮半島へ渡るのだろうか。

700km無着陸くらいで驚いてはいられない。山階鳥研の回収データにある、豪州南東部から北海道迄、ツグミの10倍の距離7,199kmを飲まず食わず渡って来ると言われる、シンジラレナイ鳥オオジシギを次回ご紹介したい。

新潟市民の崇敬する白山神社、その大鳥居から古町通りが始まり一番町から十二番町まで 2000mの一本道が伸びている。かつての賑わいが嘘の様に、シャッターを降ろした店が多く商店街の悩みになっている。アーケードを新しくしたり新規の開業者を求めたりして、対策を講じて居られるようだ。

ある日、古町麴製造所と云う店から一通のリーフレットが送られてきた。半年ほど前に若い人が私共の会社を訪ねてこられ、麴の話醸造の話を知りたいと言う。見学先を世話したり、甘酒造りの名人の話をしたり、酒麴、味噌麴醤油麴の違いやら、それぞれの醸造元がどのような製品を出しておられるか、判っている範囲の話をしていただいた。お聞きしてみると現在東京銀座三丁目「おにぎり店」を開き、更に幾つかの店を展開して居るとのことである。新潟出身だから、新潟に関わるお米で甘酒など、麴に拘った店をやりたいと言って帰っていかれた。

そして日数をおいての一通のリーフレットであった。早速に店を訪ねてみた。シャッターに対抗して木製雨戸にしたと笑って迎えてくれた。15 m²位の小さな店に、先客のご婦人二人が麴入りメロンジュース等楽しんでおられた。上古町商店街の反応は「君たちのお店のカップを持ちながら歩いている人を見ると、この通りが賑やかな感じがして嬉しいよ」。この店から麴を題材にした食品、飲料が出てくるか、麴文化が更に広がるか楽しみにして居るところだ。お神酒あがらぬ神はなし、白山さまのご利益あらたかでありますことを。

次号につづく

デジタル一眼カメラの普及が進んでいる。C社にN社にS社にP社（旧名はA社）にO社から次々に新製品が登場した結果、普及機から中級機までの価格が下がり多くの愛用者が生まれている。しかしメーカー（特にC社とN社）はAPS-Cサイズの普及機でユーザーを掴み、その後同サイズの中級機にステップアップさせてから、最後にフルサイズの高級機を買わせる「いつかはフルサイズ」戦略を持っているように見える。確かに高級機の画質と豊富なレンズには、写真を趣味とする者を魅了するだけのものを持っているが、はたしてこれだけの性能を使いこなせる人が何人いるのか疑問だ。そして1年前にこの高級志向戦略に挑戦する新たな勢力が出現した。P社（家電の）マイクロフォーサーズである。

撮像センサーが最も小さく画質では不利なフォーサーズだが、その小型軽量の長所を追及して一眼カメラの概念を覆したのがマイクロフォーサーズ。今年後半のO社とP社（家電の）の新製品もこの思想を更に進化させて一眼カメラらしくない一眼カメラに仕上がっており、来年以降のシステムの展開が楽しみだ。

私自身もフォーサーズとマイクロフォーサーズを併用しているが、将来的にはマイクロフォーサーズに統一したいと考えている。使い易く必要な性能を持っていながら小型軽量で安価なのだから、車のコンパクトクラスと同じでこの程度で十分と感じている。昔々の「いつかはクラウン」が死語になったように、「いつかはフルサイズ」も消え去る日が来るだろう。O社とP社（家電の）には一眼カメラの旧来の常識を叩き壊す先駆者となって欲しい。

◆ ちょっと豆知識 ◆ その2

そろそろ21年産米がコメの倉庫に入って、皆様のお蔵では精米機の金剛ロールが唸りをあげている頃でしょうか。早いお蔵だと、もう圧搾機の組み立ても済んでいるかも知れませんね。玄米が入荷し、精米をして米を洗い、蒸米を出すと、必ず「放冷」作業があるものと思います。大吟醸クラス以外の蒸米は、放冷機による放冷が一般的と思われますが、運転中は常時吸引用のファンが回って蒸米の空隙を空気が流通しているため、運転終了後にクラッシャーや側壁のビス、ナット類に付着した蒸米は「カピカピ」になっていて、洗浄機で洗おうと思っても、なかなか取れなくて皆さんご苦労されているのではないかと思います。

そこで、弊社で取り扱っている「バイオアドニールスプレー」を使って、放冷機の各所に付着した「カピカピ」の蒸米が比較的簡単に除去できる方法をお教えしましょう。

放冷機の運転前に、蒸米が付着しやすい部分（クラッシャー、側壁を留めているビス・ナット類）に、バイオアドニールスプレーを噴射しておきます。これにより、蒸米は付着しにくくなります。もし付着した蒸米がカピカピになっても、噴射しておいたアドニールスプレーの成分が離型剤の役割を果たし、高圧水を軽く吹きつけただけで簡単に弾き飛ばすことができます。

バイオアドニールスプレーは植物油脂を原料としているため、万一もろみや麴に移行しても安心です。また、上下逆さにしても内容物を噴射できる優れたもの。

この機会に是非お試しください。

なお、バイオアドニールスプレーはLPガスを噴射用のガスとして使用していますので、火気・高温部、電気配線露出部に向けての使用は絶対におやめ下さい。

文責：技術営業部 成田 護